

が容易であり、また気候研究に基本的に重要であるとして同定されている。

- 全球的また地域的な気候系の観測データの統合
- 全球的または地域的な気候の力学および統計学研究のための階層別のモデル開発
- 気候系における海洋の役割
- 放射上から重要な微量ガスの生化学的なサイクル
- 雲の形成、分布および放射特性
- エアロゾル、光学特性および雲への影響
- 水文学的サイクル、蒸発および降水等
- 地表面と冰雪圏特性と過程およびそれらの気候に対する影響
- 全球的また地域的な気候変化に関連する古気候の復現

5.1.5. 世界気候研究計画の機能

気候に関連する診断的、理論的また実験的な研究活動は、国家内の学術研究設立機関で実行されることを了承し、WCRPの幅広い目的は、これらの国家努力を調整し増大させることにあるべきである。WCRPの主要機能は次のことにある。

- 特殊現象や特殊なメカニズムの研究のための特定の地域的または全球的な実験を要請に応じて発足させること。
- 国家機関または研究所に対する勧告のための研究

優先順位を同定すること。

— 要請に応じて関連の国際研究活動を奨励し、また調整すること。

— 気候研究に関する情報の急速な伝達を計ること。

5.2. 最近の動き

JSCはWCRPの予備的な計画を流したが(1981年1月)、その中で国際衛星雲気候計画を推進することになった。その一環として、NASAの気候研究を管理しているSchifferが来日した。また、1981年5月に東京ではPilot Ocean Monitoring Study (POMS) Time Seriesの会議がJSC/CCCO主催で開かれた。また、1982年には再び東京でJSC/CCCO主催の「海洋実験」の研究会議が開かれる予定である。

6. おわりに

世界気候計画はWWW計画と同じように、今後、長期間にわたって推進されるであろう。この計画が花を開き、実を結ぶのは、現在、指導的立場にある有名な方々の時代ではなく、むしろ無名に近い若い人達の手によってなされるだろう。何度か述べたように、世界気候計画はまだ検討の段階で、手さぐりのところが多いが、年を追って、具体化され大きなプロジェクトに成長するであろう。将来が期待される。

気象学会および関連学会行事予定

行 事 名	開 催 年 月 日	主 催 団 体 等	場 所
第7回「リモートセンシングシンポジウム」	昭和56年11月17日～18日	(社)計測自動制御学会	機械振興会館
第28回風に関するシンポジウム	昭和56年11月27日	日本建築学会ほか	東京大学生産技術研究所第1会議室
昭和56年日本気象学会秋季大会	昭和56年12月1日～3日	日本気象学会	愛知県中小企業センター
月例会「レーダ気象」	昭和56年12月9日		気象庁東京管区気象台会議室